

まちなかのコーヒー店でコーヒーメジャースプーンをつくる

—異業種コラボワークショップの可能性—

森と木のクリエイター科 木工専攻 藤田 真弓

1. 背景と目的

私はこれまで自分でものを作り、使うことを通して、自分を表現するとともに深い充実感を感じてきた。アカデミーで木工を学び、作ったものを人に届ける以外に、普段木を使ったものづくりをする機会のない人や作ることが苦手だと感じている人に、自分で作る楽しさや充実感を知ってもらいたい。そこで、木工ワークショップに異業種の要素を取り入れ【作る+α】で興味を引くことができるのではないかと思いついた。

そこで、異業種とコラボレーションして木工ワークショップを行い、ものづくりに触れる機会の少ない人に作る楽しさを知ってもらうことを目的とする。

2. フィールドの設定

ワークショップ企画のため、実施可能なフィールドを検討していたところ、岐阜市内のスペシャルティコーヒー専門店「SHERPA COFFEE ROASTERS」（以下 シェルパコーヒー）の協力を得られることになった。シェルパコーヒー代表である中垣文寿さんは、多くの人にコーヒーの個性を知り楽しんでもらうこと、お客様にとっての最高の一杯を提供することをモットーに営業されている。コーヒーは、豆の種類や抽出器具の違いなど、こだわることができるポイントが多い。木を使ったものづくりはカスタマイズが容易であり、自分のこだわりを表現することができる。ものづくりとの親和性も高いと感じた。シェルパコーヒーの客層はコーヒー豆を買う人やカフェを利用する人など、幅広い。このカフェスペースをワークショップで利用することにより、「ものづくり」への関心だけではない参加者が見込める。

3. 実践

3-1. ワークショップ概要

シェルパコーヒーの閉店後の店内を会場とし、コーヒーをより楽しんでもらうための木工ワークショップを実施する。店頭でのチラシ配布を中心に、SNS（Facebook イベントページ）で集客を行う。

製作するアイテムは中垣さんと相談し、「コーヒーメジャースプーン」とした。コーヒーメジャースプーンはコーヒーを淹れる際、豆や粉を量る道具である。豆の量を決める重要な道具であり、そのサイズを好きな豆の種類・抽出量に合わせることで、安定

して自分好みのコーヒーを淹れることができる。

そこで、「自分仕様のコーヒーメジャースプーンをつくる」と題し、中垣さんによるレクチャーと自分の好みに合ったコーヒーメジャースプーンの製作をする。中垣さんにはレクチャーとともにコンシェルジュのような役割を担っていただき、好みのコーヒーを見つける。

製作は加工しやすい生木（コシアブラ、タカノツメ）を使用し、成形のために使用する刃物は2種類に絞ることで、木工初心者でも取り組みやすくした。また、開催時間を仕事帰りに通える時間帯に設定し、複数回かけて製作することにした。「ものを作る」という行為を日常の一部に感じてもらいたいという意図と生木の乾燥期間を設けるためである。

本研究の評価として、共催者である中垣さんからのコメントと、参加者に作った時と使った時の効果を検証するため、ワークショップ終了後と終了後2ヶ月経過後にアンケートを実施する。

3-2. ワークショップ実践

① ワークショップ1回目

日時：9/11, 18, 25, 10/2（4回連続講座）

いずれも水曜日 18:30~20:30

参加者：3名

参加者はコーヒー店の店頭からの申し込みがメインで、いずれも木工初心者であった。元々興味のある「コーヒー」という要素が「作りたい」というきっかけになったようである。

初回はナイフと木を削ることに慣れてもらうため、ナイフワークのレクチャーを交え小さめのスプーンの製作を行った。中垣さんによるコーヒーレクチャーは休憩時間を兼ねて行っていただいた。2回目以降のコーヒーメジャースプーンの製作では、参加者それぞれに普段淹れている量と豆の量、ローストの度合を聞き、実際に使用している器具で再現し、製作するコーヒーメジャーのグラム数を決めていく。最適な分量を知るために何度も中垣さんと相談する姿が印象的であった。これには他の参加者も手を止めて試飲のコーヒーをお互い



飲み比べるなど、関心が高いようだった。

製作は慣れない道具に苦戦しているようだったが、参加者からは木目の流れについて質問が挙がるなど、それぞれがどう削



ったら良いか工夫しながら進めている様子が見受けられた。随時、豆を量りながら彫り進めていく様子は、自分のオリジナルのものを作るという楽しさが伝わってくるようだった。

<終了後の参加者の感想>

- ・木目を考えながら削るのは難しいけど楽しい。
- ・自分で作ることは楽しいと知った。

② ワークショップ 2 回目

日時：11/15, 22, 29（3 回連続講座）

いずれも金曜日 18:30～20:30

参加者：4 名

製作はコーヒーメジャースプーンのみとし、3 回の講座にすることで参加のハードルを下げることを試みた。参加者は何らかの木工経験者が多く、コーヒーと木工の両方に興味があり、ゆっくりともものづくりをできることが魅力に感じたようである。

初回到普通のコーヒーレシピ（豆の量、抽出器具、時間など）を参加者に記入してもらった形式に変更した。それを元に中垣さんが淹れたコーヒーで試飲をし、サイズを決めた。製作は前回と同じ手順だが、3 回にしたため、ナイフワークは必要などところで随時伝えることとした。集中して削っている様子と道具に関する質問が多かったのが印象的だった。製作は手慣れていたため、削りすぎることの無いよう、それぞれ進捗を確認し、アドバイスしながら進めた。



初めて来店した参加者もいたため、コーヒーの多様性を知ってもらおうべく、休憩時間に産地とローストの違う豆で5種類のコーヒーの飲み

比べを行った。結果、今まで味わったことのないコーヒーに感想を述べあうなど、非常に興味関心を引いたようだった。参加者の中には、今まで好きだと思っていたものが実は違っていたといった意見も出た。

<終了後の参加者の感想>

- ・いろいろな豆を試してみたい。
- ・プロ直々に教えていただけて、今後一層興味を持ってコーヒーと付き合っていけそう。

4. 評価・まとめ

中垣さんからは以下のような評価をいただいた。

- ◆ 一人ひとりの好みを聞いて、それに合ったメジャースプーンを作ることは、とても理想的なワークショップだったといえる。参加者が純粹に作ることを楽しみ、没頭している様子も印象的だった。

中垣さんにとって、今回のワークショップは、参加者（お客様）一人ひとりと向き合い、コーヒーについて伝える良い機会であったようだ。

ものづくりの経験の少なかった1回目の参加者は、自分で削り方などを工夫しながら作る楽しさを体感できたようだった。2回目の参加者は想定していた木工初心者ではなかったが、異業種である「コーヒー」の要素が加わったことで、新たな知識の獲得とより一層作る楽しさを実感したようだった。これにより、コーヒーともものづくり双方の興味を一層掻き立てるものであると感じた。

また、2ヶ月経過後の参加者アンケートでは、7人中5人が作ったメジャースプーンを使っており、愛着があり使い勝手も良いとの意見が多かった。自分の作った道具で丁寧にコーヒーを淹れている様子もあり、日々の暮らしが豊かになったとの回答もいただいた。これはコーヒー愛好者が日常で使う道具をアイテムに選定した効果である。

上記の事柄から、オリジナルのものを作ることができた満足感以外に連続講座であることが、ただ一度の非日常的なワークショップで終わることなく、日々の暮らしの一部になりつつあったことが伺える。

また、異業種コラボレーションの効果として、「場所」の効果が満足度につながったようである。落ちついた雰囲気のコffee専門店での開催は、集中してもものづくりに取り組むことに向いていた。参加者からは「またやりたい」「平日の仕事の後の楽しみであった」といった声が挙がったことから、街中での定期的に通える木工スペースのニーズも見えてきた。

5. 今後の課題と展望

今回のワークショップでは、ほぼ全員が完成したが、数名からもっと時間が欲しかったとの意見もあり、参加者の反応や状況によってコーヒーと木工のバランス、それぞれの興味にどう結びつけていくか、共催者との連携がポイントであると感じた。

また、今後の展望として、他の異業種への応用展開が考えられる。その業種やお店なりのこだわりを木工で表現することで「伝える」お手伝いをしていきたい。